

2022.10.30

「汚い爆弾」報道について

ロシア高官による相次ぐ発言(=「ウクライナが汚い爆弾を使うかもしれない」「目的は、ロシアがウクライナで大量破壊兵器を使用したと非難し、それによってロシアの信用を失墜させることだ」)がさかんに報道されています。これに対してウクライナや NATO 諸国は「ロシアによる情報操作だ、ロシアこそがその爆弾を使おうとしている」と主張します。

このような報道を受けて、「ロシアがまた大嘘を拡散している」と考える人は多いでしょう。私もその可能性はかなりあると考えています。しかし、「そうでない可能性がある」という思いも禁じえません。

理由は次の通りです。

1、ロシアやウクライナなどの「戦争当事国」が「戦意高揚」や「国際的支援の拡大」をめざして嘘の情報を流したり事実を隠す可能性は(両国とも)常に存在する。国際的な人権 NGO である [amnesty](#) も「ウクライナ軍が民間人を人間の盾として利用する作戦を行っていた事実(隠されていた事実)」を報告した。

2、この戦争において米国や NATO 諸国も実質的な「戦争当事国」となっており、その報道内容を鵜呑みにするべきではない。

(日本や NATO 諸国の報道にかんする見解は過去記事で明らかにした。「仮に、各国の media が『侵攻したロシア側』の発表や主張だけを報道し、『ウクライナ側、侵攻された側』の発表、主張を無視したとすれば、そのようなことは許されないだろう。だが現実に『湾岸戦争』や『イラク戦争』では『侵攻した側』の米・英の発表や主張、両国の視点からの報道で埋め尽くされていた。」現在の報道は、その真逆に近い。)

3、ロシアに侵攻以前にウクライナで「生物兵器」が製造されていた事実は米国上院でヌーランドが認めている。(当初、安全保障理事会に訴えたロシアの主張は大嘘だということになっていたが、そうでないことが明らかになった…。)

4、過去において「汚い弾丸=劣化ウラン弾」が使われた例がある

1991年の湾岸戦争で、米軍がイラク戦車部隊に使用。使用量は公式には約300トン。その後、NATOによる多国籍軍がボスニア紛争およびコソボ紛争に介入し、ボスニアで約1万発、コソボでは約3万発の劣化ウラン弾を使用したことを公式に認めている。また、イラク戦争でも、米軍は劣化ウラン弾を大量に使用したといわれる。イラクに派遣された陸上自衛隊が駐留したサマーワ郊外においても、米軍がイラク戦争時に使用したものとみられる劣化ウラン弾が複数発見された。

5、過去において「偽旗作戦」や虚偽に基づいて戦争が行われた例がある

ベトナム戦争開戦時の[トンキン湾事件](#)、湾岸戦争開戦時の「ナイラ証言」、イラク戦争開戦時の「大量破壊兵器保有疑惑」。いずれも大嘘を機に侵攻が行われた。

ウクライナ戦争の「汚い爆弾」問題にしても、ロシア側の大嘘である可能性はあるが、「爆発させた汚い爆弾の被害」をロシアのせいにして、「ウクライナ支援疲れ」が見える NATO 諸国からの支援拡大につなげようとした可能性も否定できない。

(主語はウクライナ或いは NATO 関係者、或いは米国 CIA 関係者。)